

■別表 1

修士論文 評価項目

ディプロマ・ポリシーに示された「専門分野にかかわる深い学識と倫理観 (DP1)」ならびに「現代社会の諸問題を専門分野の視点から分析し、考察する力 (DP2)」に基づき、下記 7 点を評価する。

- (1) テーマの選択と研究方法が適切である。
- (2) 文献調査や先行研究などを正確に読解している。
- (3) データや資料などを的確に収集・処理している。
- (4) 独創的な分析、解釈、提案などを行っている。
- (5) 論旨が明快であること。
- (6) 論理的な文章であり、よくまとまっている。
- (7) 不正がない。

評価基準

- (1) 評価項目のすべてを満たしていない論文は「不可」とする。著作権の侵害などの不正があれば「不可」となる。
- (2) 著作権の侵害などの不正がある場合を除き、評価項目のいくつかを十分に満たしていない論文は、「良」と「可」いずれかの評価とする。
- (3) 評価項目を概ね満たし優れている論文は、「優」とする。さらに、大変優れている論文は、「秀」とする。

■ルーブリック評価表の例

教員（主査）が年度ごとに学生一人ひとりを評価する。

DP	秀	優	良	可	不可
(1) 専門分野にかかわる深い学識と倫理観（専門性）					
全大学院生対象 （単位修得状況）	各科目の単位修得状況において、専門性が高い水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、専門性が十分な水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、専門性が一定の水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、専門性が最低限の水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、専門性が修得できていない
修論生対象 （修士論文中間発表会、修士論文）	修士論文の制作において、専門性が高い水準で修得できている	修士論文の制作において、専門性が十分な水準で修得できている	修士論文の制作において、専門性が一定の水準で修得できている	修士論文の制作において、専門性が最低限の水準で修得できている	修士論文の制作において、専門性が修得できていない
実習生対象 （実習／事例報告会）	実習や事例担当において、専門性が高い水準で修得できている	実習や事例担当において、専門性が十分な水準で修得できている	実習や事例担当において、専門性が一定の水準で修得できている	実習や事例担当において、専門性が最低限の水準で修得できている	実習や事例担当において、専門性が修得できていない
(2) 現代社会の諸問題について、専門分野の視点から分析し、考察する力（問題を捉える力）					
全大学院生対象 （単位修得状況）	各科目の単位修得状況において、問題を捉える力が高い水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、問題を捉える力が十分な水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、問題を捉える力が一定の水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、問題を捉える力が最低限の水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、問題を捉える力が修得できていない
修論生対象 （修士論文中間発表会、修士論文）	修士論文の制作において、問題を捉える力が高い水準で修得できている	修士論文の制作において、問題を捉える力が十分な水準で修得できている	修士論文の制作において、問題を捉える力が一定の水準で修得できている	修士論文の制作において、問題を捉える力が最低限の水準で修得できている	修士論文の制作において、問題を捉える力が修得できていない
(3) 現代社会における諸問題を解決するために、専門分野の知見を高い専門性をもって応用する能力（解決への応用力）					
全大学院生対象 （単位修得状況）	各科目の単位修得状況において、解決への応用力が高い水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、解決への応用力が十分な水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、解決への応用力が一定の水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、解決への応用力が最低限の水準で修得できている	各科目の単位修得状況において、解決への応用力が修得できていない
実習生対象 （実習／事例報告会）	実習や事例担当において、解決への応用力が高い水準で修得できている	実習や事例担当において、解決への応用力が十分な水準で修得できている	実習や事例担当において、解決への応用力が一定の水準で修得できている	実習や事例担当において、解決への応用力が最低限の水準で修得できている	実習や事例担当において、解決への応用力が修得できていない
教員コメント等					